

## おわりに

### 「子どもらが帰った後」

子どもが帰った後、その日の保育が済んで、まずはほっとするのはひと時。大切なのはそれからである。

子どもといっしょにいる間は、自分のしていることを反省したり、考えたりする暇はない。子どもの中に入り込みきって、心に一寸の隙間も残らない。ただ一心不乱。

子どもが帰った後で、朝からのいろいろのことが思いかえされる。われながら、はっと顔の赤くなることもある。しまったと急に冷汗の流れ出ることもある。ああ済まないことをしたと、その子の顔が見えてくることもある。一体保育は……。一体私は……。とまで思い込まれることも屢々（しばしば）である。

大切なのは此の時である。此の反省を重ねている人だけが、真の保育者になれる。翌日は一歩進んだ保育者として、再び子どもの方へ入り込んでいけるから。  
（『育ての心』（上）倉橋惣三 著）

保育の営みは、いくら経験を積んでも、完璧にこなせるものではなく、悩みはつきものです。上記「子どもらが帰った後」に示されているように、先輩保育者も日々、このようなところもちでいます。

保育に正解はないのですが、迷ったり、悩んだりした際に従うべきものは、やはり子どもです。子どもの姿から次への歩みを見出すことが大切です。だからこそ、「子どもらが帰った後」のように、保育の一コマ一コマを思い返し、まずは自分で自身の保育を評価することが必要です。

しかしながら保育は一人でするものではなく、チームでするものでもあります。周りの様々な先生方の見方・考え方などに触れ、自身の視野を広げ、保育の引き出しを増やしていきましょう。

乳幼児期の子どもと共に生活をし、一人一人の子どもの成長を目の当たりにできる保育者の仕事は尊いものです。その分、一筋縄ではいかず、悩みや迷いも多いものですが、幼児教育センターはそんな先生方のよりどころとなり、常にみなさんとともに保育を考えていきたいと願います。



幼児教育キャラクター

い・た・みちゃん

豊かなふれ愛でひろがる幼児教育  
～「愛情」「自然」「ことば」～

伊丹市新任保育者のガイド

保育のあゆみ

発行：伊丹市教育委員会事務局 こども未来部  
幼児教育保育室 伊丹市立幼児教育センター  
(伊丹市立総合教育センター5階)  
〒664-8503 伊丹市千僧1-1  
TEL(072)780-2488  
発行年月：令和6年(2024年)2月